

2018 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
教育学部 子ども発達学科	准教授	梶浦 恭子
最終学歴	学 位	専門分野
岐阜大学大学院教育学研究科 教科教育専攻・家政教育専修（修士課程）	修士	幼児教育

I 教育活動

○目標・計画

（目標）

幼稚園実習において学生は意欲的な取り組みや援助が実践できたか

（計画）

学生が、実習を終え、自己評価を総合的に行う。さらに、自己課題においてはどうかであったかを具体的に アンケートや記述式で答え、評価をする。そこで、

- ・ 学生の実践が、自発的に行動でき意欲的な態度ができていたか、
- ・ 幼児の発達や特性をふまえた効果ある援助の動きや取り組み方ができたか

等を実証する

○担当科目（前期・後期）

（前期）教育実習Ⅰ 事前事後指導、サービス・ラーニング実習Ⅰ、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、教育実習Ⅰ（幼稚園）

（後期）保育内容（環境）、生活、生活科教育法、教職実践演習、サービスラーニング実習Ⅱ、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ

○教育方法の実践

①幼稚園実習において、【学生へ意欲的な取り組みや援助が実践できたかについて】

「教育実習Ⅰ 事前事後指導」担当科目の事前指導（前期、後期）で、

- ① 学生による・「個人票」の記述、
- ・ 実習の心構え「実習にあたって」の作文
- ・ 実習園訪問による報告書作成等。

学生の履歴文書や実習園環境へ臨む意欲を文章化した書類を添削した後、幼児の内面理解と、援助の具体的な方法を学生に指導し文脈を整理する。

「実習園訪問報告書」等、提出期日厳守の働きかけを行い、準備を入念に行った。

- ② 実習日誌、部分（全日・一日）実習指導計画案 3 案を実習前（後期）に作成する演習期間を教育実習Ⅰ（幼稚園）後期に向けて、夏季休業に設定し自主的行動を促す計画を実践する。

○作成した教科書・教材

個別面談のための、自己評価のためのアンケート作成をしたところ、スムーズな振り返りと記述効果が得られた。

そこで、「愛知県私立幼稚園連盟 愛知県保育実習連絡協議会 幼稚園教育実習要項」内にある成績評価基準の内容を基本に、成績表とタイアップした自己評価票（前期、後期の二種類）の作成に取り組んだ。学生の自己評価に役立て、次年度の実習意欲の効果や成果を実証するための教材として利用する。

○自己評価

提出物の提出日より遅れて出す学生が目立ったことを省察する。意欲を喚起できるよう内容を具体的に説明し、課題・疑問・問題を自分なりに整理し提出が促進される計画をすべきと思えた。

・今後に向けて

現場の保育者は毎日を真剣に、子どもたちと楽しく遊び・学び、仕事内容の責務を持ってこなしている。それを理解するには、やさしさ、誠実さ、柔軟性と意欲ある取り組みが日々の学生生活においても普通にできる学生であると思う。そのような資質、態度を身につけている真面目な学生を今後、地道に育てたい。

各教科において、素直に取り組み、真剣で誠実にそして意欲的に学ばせたい。今は何をどうすべきかといった真っすぐな感覚をつかみ、その感性を切磋琢磨しようとする姿勢をもった学生を育みたい。

だが、基礎演習や総合演習、専門演習の授業において、授業内の課題の取り組みや行事をもおろそかにせず、活かすことをしてきただろうか。まず、そこから考えたい。

教員は学生と協力体制を持ち、生活一般の態度や授業に取り組む意欲や志が、継続的で向上心が持てるよう 15 コマを構造化（幹からでる枝葉となるゼミ生の特徴を生かした考え方による）していく必要が見いだせると良い。学生においても受け身でなく、工夫や計画が生れるよう共に考え、立案し判断し実行できていく流れを作り、独自のものという自信となる自尊感情になるはずである。

自己の未来の目標に向かう気持ちを見失わず、今、何が大切なことかを考えられる自分を失わずに行動できるような人、そして自分の生活を作る意思を一人一人が持ち、自分の意見を持ち、現実を一つ一つ考え生き抜く力を持つ人と、意欲的で自主的な行動ができる実践力を持つ人を育みたい。

教員は、教材、テキスト、資料環境を計画的に提示し、仲間と協同学習、あるいは自己研究・探求作業活動するその流れを各自が自分自身でつくれるようにしたい。任せてばかりではなく、随時、確認は怠らない。また、事前に何を学習しておくか、理解しておくか、スムーズに目的をもって行動する仕組みをつくるようにしたい。こぼれ落ちる学生に目をかけすぎて、流れがつけられなかった。個別対応をするが、自分で考えさせ判断力を持たせていく。

反省の多い1年であったことを心得、社会へ一歩ずつ踏み出せる学生を育むために、挑戦的意欲がもて、自信が芽生える研究、追究する学生生活を送れるよう、教員自身が覚悟して臨みたい。

II 研究活動

○研究課題

自然環境と幼児について

○目標・計画

(目標)

幼児が自然環境とどのように出会いどのような遊びをつくり出すのか

(計画)

方法は、幼児の行為・動作を、カメラ撮影し、遊び場を研究者が抽出する。幼児の行動は心情の現れと考え、動きを観察し、捉え、事例を収集する。自然体験活動は危険を伴うが教育的意義は豊富にあり、幼児が表現する行為を、物的な環境と人的な環境を通して導きたい。

その目標に向かうために継続的に「森のようちえん」という自然体験活動フィールドを訪問する計画である。

○2011年4月から2019年3月の研究業績（特許等を含む）

(著書)

- ・江田司 梶浦恭子 田中まさ子 谷口篤 横井志保 他 8 人『教育実習の手引き(幼稚園・小学校)』一粒書房、2016 年、第 1 章第 3 節 幼児教育に携わる者に求められる専門性 第 2 章第 3 節 指導案の立て方・指導案(サンプル) 35-36、43-46

(学術論文)

- ・梶浦恭子「0~3 歳児の自然体験遊びについて」名古屋学院大学論集. 社会科学篇 = Journal of Nagoya Gakuin University 54(4), 171-181, 2018
- ・梶浦恭子, 西澤彩木「自然物を手にする幼児はどのような表現をするのか: 幼児の行動記録を手がかりに」名古屋学院大学論集. 人文・自然科学篇 = Journal of Nagoya Gakuin University 53(2), 125-138, 2017-01
- ・梶浦恭子, 今村光章「“森のようちえん”の幼児が触れる自然物に関する実証的研究」環境教育 = Environmental education 25(1), 176-183, 2015-07 日本環境教育学会(査読有)
- ・梶浦恭子, 今村光章「なぜ幼児は「森のようちえん」で枝を拾うのか」環境教育 = Environmental education 24(3), 137-144, 2015-03 日本環境教育学会(査読有)
- ・梶浦恭子「幼児の手が会える森の世界」岐阜大学大学院教育学研究科修士論文, 216, 2014-03
- ・木澤光子, 三輪聖子, 梶浦恭子, 馬淵知子「子育て支援の託児・ベビーマッサージを通して得た学生の学び」岐阜女子大学紀要 41, 143-150, 2012-03-15
- ・内田裕子 梶浦恭子 森俊夫「幼児の絵の色彩特徴と形態特徴の評価」日本色彩学会誌 36, 134-135, 2012-05-01
- ・木澤 光子, 三輪 聖子, 梶浦 恭子, 馬淵 知子「子育て支援「ママパパの宝物」の取り組み」岐阜女子大学紀要 41, 151-158, 2012-03-15

(学会発表)

- ・梶浦恭子「自然体験活動からの学び: 対象(自然)物に向き合う場面において幼児と保育者が並列の位置で育むもの」一般社団法人日本環境教育学会, 2018-08
- ・梶浦恭子「自然物に出会う幼児の表現行為を探る」一般社団法人日本保育学会, 2018-05
- ・梶浦恭子「自然物にふれる乳幼児の表現行為を探る: 0~3 歳児の抱っこや手つなぎから」日本乳幼児教育学会, 2017-11
- ・梶浦恭子「乳幼児が自然物とかかわる意味を探る: 森の世界の出来事における手の行為場面から」一般社団法人日本環境教育学会, 2017-9
- ・梶浦恭子「自然物は幼児にどのような表現行為を生み出すのか: 森のおやこクラス「おさんぽさん」の素朴な見える動きから」一般社団法人日本保育学会, 2017-05
- ・梶浦恭子「保育者から研究者へ - 現場出身者の課題を共有する」日本乳幼児教育学会, 2016-11
- ・梶浦恭子「自然物に触れて遊ぶ幼児の手が作り出す表現を探る」日本乳幼児教育学会, 2016-11
- ・梶浦恭子「自然物を用いた幼児の造形活動における指導のあり方」日本環境教育学会, 2016-8
- ・梶浦恭子 作品発表「かくれんぼ絵本」絵本学会, 2016-5
- ・梶浦恭子「自然物に触れて遊ぶ幼児の手の動きに注目して」日本保育学会, 2016-5
- ・梶浦恭子「自然物(枝など)に触れて遊ぶ幼児の行動からみえるもの」日本環境教育学会, 2015-8
- ・梶浦恭子「枝を持って遊ぶ幼児に関する一考察」日本保育学会, 2015-5
- ・梶浦恭子, 今村光章「森のようちえん」で磨かれる感性(2) 日本環境教育学会, 2014-8
- ・今村光章, 梶浦恭子「幼児が「森のようちえん」で枝を拾う意味」日本環境教育学会, 2014-8
- ・梶浦恭子「人と人がつながるあそび かんたん手づくりえほん」絵本学会, 2014-5

- ・梶浦恭子「幼児の手が会える森の世界：行動記録を手がかりに」日本保育学会，2014-5
- ・梶浦恭子「森のようちえんで磨かれる感性」日本環境教育学会，2013-8
- ・梶浦恭子「森のようちえんで幼児は何に触れるか」日本保育学会，2013-5
- ・杉山喜美恵 梶浦恭子「実習記録簿に対する保育所の意識 2. 調査よりわかること」日本保育学会，2013-5
- ・梶浦恭子 杉山喜美恵「実習記録簿に対する保育所の意識 3. 自由記述から見えるもの」日本保育学会，2013-5
- ・森俊夫 梶浦恭子「幼児にできる草木染めと科学遊び一色の不思議を感じる一」日本保育学会，2012-5
- ・梶浦恭子「絵本のイメージと色彩的特徴—絵本の見方の一考察—」日本保育学会，2012-5

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

○所属学会

一般社団法人日本環境教育学会、一般社団法人日本保育学会、日本乳幼児教育学会、日本野外教育学会、絵本学会

○自己評価

（学会発表）について、最近3年間参加できていない絵本学会がある。日本野外教育学会も、本年度は参加していない。日程が合わないからである。今年度もそうであるなら、削除する方向も考える。学会発表を励みに、参加する方向であるが研究内容に重厚さがあるように、著書を読み、現場の実践も積み、研究において、落ち着いて取り組めるよう基盤づくりをしていく。諸々の事務処理を丁寧にする一方、すみやかに行うよう努力する。

（学術論文）について、すでに書き上げた学会発表内容を、一つの論文に仕立て上げたいと考えている。だが、対象児の乳幼児の発達はめざましく成長することもあるため、問題・課題（や新たな認識）が湧き上がってくる。何とか各事例の学びの構造の共通性を見出し、実践の一般化の検討になるよう理論づけたい。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

（目標）

- ・総務委員会の委員として、本学の教育・研究活動の環境を改善するための課題解決に向けた提言を行う
- ・防災教育・個人情報保護委員会の委員として、見直し確認しながら意識向上に努める
- ・国際交流委員会の委員として、留学生の受入、派遣の企画・実施等を行う。また、学生のための個別留学の推進をする（協議事項である）。

（計画）

月次課題の計画事業の要項を作成し、方法確認や、検討のため、月ごとに委員会会議を行う

○学内委員等

総務委員会委員、国際交流委員会委員、幼小教職委員会委員、保育士養成課程委員会委員

○自己評価

学内委員について、月ごとに学生にとって何を、どうしていくと良いかを考え合う機会を、他学科教職員とできるのが新鮮であった。内容を理解し、学生にかみくだいた説明（例：国際交流の海外研修）ができるようにしたいと思っている。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

人と人の心がつながる本を介した遊びを稲沢市の図書館で行う

学生が関わる内容を検討し、名東区のサービスマーケティングを地域とする学生の参考にする

(計画)

稲沢市中央図書館、祖父江の森の図書館で4月と11月に行う

内容は、「くるくる絵が変わるしかけえほん」を親子でつくろう”を計画している。

○学会活動等

日本乳幼児教育学会 2018 第 28 回大会 12 月 8 日 研究発表 I-3 「保育環境 1」座長

○地域連携・社会貢献等

①愛知県立瀬戸北総合高校 1・2 学年イベント「学びをまなぶ」講義 2018 年 11 月 26 日

題目：『絵本の世界』-絵本は子どもにとって物語の世界？知識の世界？科学の世界？それだけ？-

②一般社団法人岐阜県私立幼稚園連合会巡回子育て相談員

訪問場所：かたびら幼稚園 第二かたびら幼稚園

③図書館イベント活動

活動場所：稲沢市中央図書館 4 月、祖父江の森の図書館 11 月 内容：「くるくる絵が変わるしかけえほん」を親子でつくろう

○自己評価

【地域連携・社会貢献等について】

①、②は、これまでの経験を社会に貢献できるチャンスととらえて、積極的に行うことができたと思える。

②については、授業に支障がないよう、現場を見るために、2 回を 4 回程度に計画し、岐阜県内の学生の出身地域の園を対象に巡回できるようにしたい。園の状況や最近の保育内容を視察できるものと考え計画する。

③においては、多様な職種の人材で構成されているボランティア活動である。目的は、図書館利用者によりよく利用できるような活動をと考えてきた。だが、仲間全体に仕事や家庭の事情によって活動を縮小せざるを得ない状況に来ている。そこで、年に 2 回のイベントを 1 回にしたり、団体会議は遠慮したりと、方向性を図書館担当者に申し出、最小限の活動で行う計画にし、乗り切っていくこととなった。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

VI 総括

乳幼児にとって自然（環境）におけるモノ・ヒト環境とは何か。大人には理解されにくい乳幼児の行動には、逸脱ともいえる行為もある。多様な行動に目を向け、心身の発達、成長においての意味が必ずあると考え保育者としての対応課題として配慮、援助方法の具体を学生一人一人が追求できるようにしていく。自分にとって解明できていないこととして、未知を尋ねる研究を、学生と探り解いていきたい。

以 上